西原町の歴史・文化

内間御殿

平成23年2月7日に国指定文化財になりました。

字嘉手苅地内にある、琉球王国の王だった尚円王(金丸)が内間地頭時代に住んでいた住居跡です。

昔から地元の人に愛されており、文化財としての価値も高く、門前には「沖縄の名木」に選ばれた老木さわふじがそびえたちます。

▶内間御殿

▶先王旧宅碑(せんのうきゅうたくひ)

▶東江御殿(アガリーウドゥン)

幸地グスク

首里城と中城城を結ぶ道が幸地グスク内を通過しており、関所的な役割を持っていたと考えられています。

また、琉球の正史「球陽」の外巻として編纂された『遺老説伝』に幸地グスクが記されており、当時の西原の様子を知る数少ない資料となっています。

棚原の石畳

棚原地区は、ウヮーフルや土帝君など戦前・戦後の生活の様子を知る資料が多く残っている地域です。

石畳道は町内ではここにしか残っておらず、周辺には竹や木々が生い茂っており、風情があります。

▶ウヮーフル

▶棚原の石畳

ニシバル歴史の会

平成22年に結成し、町内の文化財等を案内・説明することを主に活動しています。

町内の史跡巡り等の際には是非ご活用ください。

問い合わせ先:事務局(西原町教育委員会生涯学習課内)
TEL.098-945-5036

西原はみだしSTORY

西原はこんなにデカかった!

現在の西原町は3市2町1村に囲まれた約16㎢の町ですが、古琉球といわれている10世紀から17世紀の間には、今の石嶺や天久、泊、安謝までもが西原間切と呼ばれる地域でした。

さらに、中城湾から約14km東にある津堅島も西原間切だったというから、相当広い行政地域だったといえるでしょう。